

◆NEW

帝国データバンクが10月17日に発表した出版業界の決算調査によると、大手出版社の2012年度売上高は、

10  
社中  
7  
社が減収。売上高トップは集英社（  
1261  
億円）で前期比  
4.4  
%減。以下順に、講談社（  
2  
位）、小学館（  
3  
位）、角川書店（  
4  
位）、日経  
BP  
（  
5  
位）、宝島社（  
6  
位）、東京書籍（  
8  
位）が減収で、講談社と小学館、日経  
BP  
の減収は  
2  
期連続。文藝春秋（  
7  
位）、光文社（  
9  
位）、ぎょうせい（  
10  
位）は増収だった。

ただし、減収のなか、損益は10社すべてが黒字で、うち9社が2期連続黒字となっている。

また、書店経営業者(301社)の状況を調べたところ、2012年度売上高1位の紀伊國屋書店を  
含め、売上上位 10社

中  
 6  
 社が減収。このうち、紀伊國屋書店、フタバ図書、文教堂の  
 3  
 社が  
 2  
 期連続減収となっている。それに対して、売上  
 31  
 位以下では  
 46.5%(126  
 社  
 )  
 が  
 2  
 期連続減収となり、小規模の書店経営業者ほど売上減に歯止めがかかっていない現状が浮き彫りになった。なお、全体では  
 68.8%(207  
 社  
 )  
 が減収だった。

順位	会社名	2013年度売上高(百万円)	2012年度売上高(百万円)	2013年度対2012年度増減率(%)	2013年度対2012年度増減額(百万円)
1	丸善(株)	121,968	120,958	▲1.1	-1,010
2	紀伊國屋書店(株)	113,929	111,872	▲18.6	-2,057
3	文芸春秋(株)	107,968	106,468	▲1.5	-1,500
4	丸善(株)	86,178	85,961	▲2.5	-217
5	丸善(株)	76,077	76,389	▲4.0	-312
6	丸善(株)	65,968	65,968	▲18.0	-12,000
7	丸善(株)	55,974	55,961	▲1.3	-13
8	丸善(株)	47,614	47,614	▲1.3	-1,700
9	丸善(株)	39,324	39,400	▲1.9	-76
10	丸善(株)	33,943	33,644	▲8.9	-2,999

出版科学研究所によると、2013年上半期の推定出版物販売部数は、書籍が3億6489万冊(前年同期比  
 0.1%  
 増  
 )  
 、雑誌が  
 8  
 億  
 7627  
 万冊  
 (前年同期比  
 6.3%  
 減  
 )

で、書籍よりも雑誌の落ち込みが激しい。

このような書籍・雑誌の落ち込み＝出版不況に関して、帝国データバンクは、「出版社、出版取次、書店」という出版流通の“川上”から“川下”に至るまで、いずれも減収傾向に歯止めがかかっていない現状があらためて浮き彫りとなるとし、各社ともに、今後の成長が期待される「電子書籍」への対応・展開を進めているが、売り上げへの寄与は限定的なものにとどまっていると指摘。現状ではむしろ、「電子書籍の台頭が紙媒体の一部需要を奪う

負の側面

が大きいようだ」としている。

この分析は、「まさか！」である。電子書籍が紙書籍を食うという「カニバリズム論」は、すでに否定されている。アメリカでは、そうになっていないし、実際、日本でもそうになっていないからだ。むしろ相乗効果で「紙の売上も伸びる」というのが定説になっている。

ただし、紙（雑誌・書籍）が、ネットの影響で売れなくなっているのは間違いない。とくにスマホの普及で、そちらに読書時間が奪われている事実がある。